

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.107

2008/10/20

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

多種多様な自然学習の舞台にも



森近傍の道路切り通しで地層の観察 (08/10/16)



地層のスケッチに集中する子どもたち (08/10/16) 教材開発も充実してゆく必要があります。来年度に向かって、会員 1 テーマというつもりで多角的なガイド集的なものをまとめることを始めようではありませんか。山門水源の森版 "The Sense of Wonder" を目指して。

最近の保全作業は、観察コース沿いの草刈・取り残したセイタカアワダチソウの除去・砂防作業等を順次繰り返しています。特に草刈作業は、里山の保全に欠かすことのできない人為的攪乱を念頭に置きつつ実施しています。かつては生業の副産物として維持されてきた里山の生物ですが、生業が成り立たなくなった今、生物多様性を維持するためには意識的な攪乱作業が必須です。ただいつでも言うわけにもいかないのが難点です。時期を考えずに一斉に草刈を実施すると、種子が成熟していないうちに刈り取ってしまうこととなり、次の年にはその植物が見られなくなってしまうということがあります。したがってタイミングを見計らって実施しなければなりません。



沢の浸食を防止するための砂防作業 (08/10/02)



PHOTO BY ITO



PHOTO BY ITO

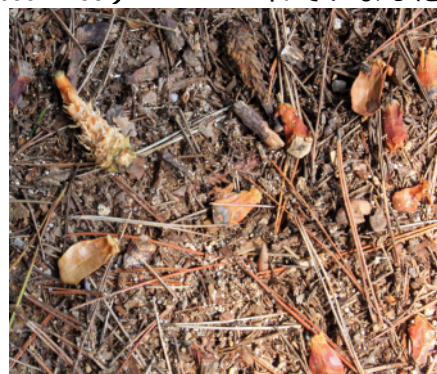
闇夜のシカの動態が遂にとらえられました。伊藤会員が試行錯誤して設置した無人カメラに鮮明にとらえられました。これまでもイノシシや鳥等がとらえられていました

何を探しているのか？ (08/10/08 23:39)

疾走中のシカ (08/10/08 1:50)

が、今回の画像は特に鮮明です。今後続々と夜の生態が明らかになることを期待したいものです。

シカも繁殖期に入り、真っ昼間でも森のあちこちで牡鹿の鳴き声がけたたましく聞こえます。頭数が増えたのか、今年は植林のヒノキの角剥ぎ被害が過去最大です。間伐材として利用できそうな太さのものが被害に遭っています。ニホンリスも撮影こそうまくできませんが何回か出くわします。アカマツの下には右の画像のような食痕（エビフライ）があちこちで見られますし、付属湿地では、ノウサギも観察されました。



エビフライ (08/10/03)



シカの角磨ぎ被害 (08/10/16) ました。10月18日にも会員で

2003年3月に試行的に北部湿原の復元作業（面積は100m²）を始め、復元の可能性を確かめた上で、復元作業を繰り返してき



0

付属湿地のノウサギ (08/10/17)

北部湿原の復元作業の現況（北部湿原北端から南望）(08/10/20)
復元面積拡大に取り組みました。上の画像が復元作業最先端部からこれまで実施してきた復元地を見たところです。昨年までに **カヤネズミの真新しい巣** (08/10/20)

復元作業を完了した部分には既にヌマスゲが被っており、場所によってはクサレダマ、エゾリンドウ、トキソウ、サワシロギク、ノハナショウブなどが戻ってきています。来年の今頃には、北部湿原全域の復元が完了しているはず。あと少しです頑張り

コース沿いの草刈も大事 (08/10/20) ましょう。コース沿いの草

刈も年々作業が楽になってきました。

NEWSLETTER 連絡先 : TEL&FAX:077-578-4998 e-mail:hide-n-c@mui.biglobe.ne.jp